

太陽の力で 行灯が灯った

久世おひさま発電所



太陽光発電で点灯された園児の行灯

久世保育園に市民共同で

原発より自然エネルギー

「城陽市立久世保育園」(松岡和子園長・園児173人)で29日、「久世おひさま発電所」が完成、点灯式が行われ、園児、地域の人達が共に祝いあった。

昭和45年開園の同園は、長い歴史の中で地域にとけ込んできた。平成18年4月の移転新築を機に、市内初の「公設民営園」としてスタート。運営主体の清仁福祉会は、市内に2保育園を運営しており、玄米や有機栽培の野菜、木の葉など自然

食を取り入れ、雨水タンクの水で水まきをするなど、自然との関わりを大切にしている保育方針を進めてきた。

平成23年3月11日に発生した福島第1原発事故は、改めて安直・安直・超危険な原発がもたらす破壊力の絶大さを感じ知らされた。

原発はまた「トイレ無きマンション」と言われるように、発電によ

って生じる大量の放射能汚染物の処理が出来ないまま、発電を続け

てきたことの愚かさを、汚染水流出問題など今

もなお見せ付けている。未来を担う子ども達

に、人類の生存さえ脅かしかねない原発に頼

ることなく、環境を破壊しないこと、自然エ

ネルギーの大切さを体得してもらおうことの重

要性を痛感した松岡園

長は昨年5月、太陽光発電装置の設置を提案してプロジェクトが開始

した。設置費用はざっと50万円。園単独では

しんどい。京都府内の保育園、幼稚園などに

「おひさま発電所」を16カ所に設置して、環

境学習を進めている認定NPO法人「きょう

とグリーンファンド」(板倉豊理事)と共

同で設置することを決めた。

園が300万円を負担、NPOから50万円

が助成された。残る200万円を地域に「協

力金」(1口10万円・5年後に返済)及び

「寄付金」(1口3000円)の形で、支援

を久世・深谷両校区自治会連合会、城陽市社

会福祉協議会に依頼したところ快諾。同自治

会は、回覧板で各戸に寄付を呼びかけた。園

の芝生施工、管理を担っている(株)城南工建の

バックアップも得た。こうしてこの日、園・

NPO・地域共同の「太陽光発電設備」

(10+P)が完成した。

「点灯式」は午前10時過ぎから、ホールで

園児をはじめ、地域の人も集まり行われた。

「ハタさん」こと畠山智子さんが、おサル

の「アイアイ」や人間の「シンちゃん」と腹話

術でユーモラスにかけあいながら、地球温暖

化が何故起こるのか、どうしたら解決できる

のかなどを分かりやす

く園児に語りかけた。「スーパードレス袋を

なくすには、どうしたらいいのか」と畠山

さんが問いかけると、すかさず「買い物行か

へんかったらええね」と園児からの確かな

回答。畠山さんの巧みな「環境腹話術」に園

なり、「じゅつ」「きゆう」「はくち」「なな」とカウントダウンが始まり、「せーろ」と同時に会場中央に置かれた、もも組、れんげ組、きく組、うめ組など8クラスの園児が作った「行灯」が一斉に点灯、歓声が上がった。

【藤本博】